

2021(R3)年9月25日
令和3年度 第二回合同幹事会

議題1. 第54回総会懇親会報告(総括)
実行委員長 濱田(高43回生)

第54回東京同窓会総会・懇親会／振り返り 総括

(1) 事前の準備・検討段階

①スタートとしてのオフライン（会合）オンライン併用の試み

- ・ 新型コロナウイルスが収まりを見せない中、併用方式での開催を模索した。
同窓会新年会（松本）2021年1月3日がテレビ松本協力のもとZoomを使ったオンラインで開催された実績も後押しとなった。
- ・ テーマの決定 ～「結(ゆい)、時をつなぐ、人をつなぐ、縣陵愛」Connecting the dots～
- ・ GW前までの段階では、アルカディア市ヶ谷、松本二大拠点と、Zoom画面は20用意することとした。Zoom画面については、松本と東京に同窓関係の店に一定の会員に集まってもらい、それらをネットワークする構想であった。また、アルカディア人数は50人程度を想定していた。
- ・ GW明け5月6日、コロナ収まらずさらに人の集まる場についてはできるだけ削減するべきではないか、ということで松本と東京の同窓関係の店への参集を断念。アルカディア人数もさらに見直すこととした。
- ・ 5月20日にはZoomの画面を25に拡大することとした。
- ・ 会場のアルカディア市ヶ谷、松本スタジオ以外に予め決めさせてもらったZoom参加者（以下「Zoom出席者」という）とYouTube視聴者の中間に、申し込みをもらってZoomで参加できる方を募ることを考えていた。これが会の広報、参加（視聴）募集の上で混乱を招いた。結果的にZoom参加者は募らないこととなったが、この当初構想からの切り替えがスムーズにできなかった。（Zoom出席者の数が最後までわからず、画面上でも多数になれば収集がつかなくなるので、結果的にはそれでよかったが）

②広報・周知

- ・ HPの初回案内から直前の案内、総括のメッセージまで佐原様と連携できた点、それぞれのタイミングでSNSを活用した周知を工夫した点は上手く機能していた。
- ・ オンライン参加の方法やZoomの参加に関する案内に関してはもっと早い段階で準備しておく必要があった。Zoomで参加できる可能性を残していながら、それを断念した告知、またYouTubeの申し込みが分かりにくかったこと、視聴案内が遅れたことは反省。

YouTubeは申し込まなくても反響を知りたかったこと、登録してもらうことで最新の会員情報を得る目的もあったが、それに回答をもらうことが視聴の条件になっていたわけではない。

- ・ 会員一斉メールも行ったが、会報あがた配布2,530部に比してアドレスを把握しているのが326件、不達40名分も含めて実際に届いていると思われるのはもっと少ない。 回期幹事を通じた会員への告知について、何人の手ごたえがあったかなどのフィードバックがない。

③協賛金と収支

- ・ 寄付、懇親会費など、限られた状況の中で多数の協力を得られたことに感謝、改めて縣陵東京同窓会の結びつきの強さを感じた。
- ・ 振込みの際に協賛金、寄付金、懇親会費など費目の混在があった。
- ・ 賛助金のめやす500円／口最低2口はまずまずか。賛助金206,000円は予定（30万円（2口×1,000人）を下まわったが、寄付金180,000円は予想を超えて協力を頂いた。計386,000円105人、平均3,676円。
- ・ 大口の寄付者についてはどこかで銘記顕彰も考えては。
- ・ 会報あがた配布2,530部に対して、返信はがき152。GoogleForm返信20はあまりに寂しい。
- ・ アルカディア市ヶ谷参加者は12名に留めたため、200～300名という多数参集によって会場固定費を賄える例年と異なり、協賛金も当てにはしながらも経常収支としては苦しいことは目に見えていた。オンライン配信という一定の「質」も求められる中、テレビ松本ケーブルビジョンの力は非常に大きかったが、その経費について本部から50万円を支援頂いた英断に感謝したい。実行委員会も史上最低限の人員であり、活動費も廉価で済んでおり、結果約20万円の本部繰入金を残すことができた。濱田実行委員長の個人的な尽力も大きかった。
- ・ オンラインからの協賛金・寄付を受け付ける仕組みを整備する事で比較的若い世代を取り込めるのではないか。
- ・ アルカディア市ヶ谷も「パーティープラン」という時宜に叶ったメニューを用意してくれたことで、会場関係費は約5万円割り引きされた。コロナ渦での会場利用を意気を感じてくれたことに留まらず、継続して開催される縣陵には一目置いてくれている。

(2) 当日の運営に関して

① 会場、進行

- ・ TV松本様のご協力のもと概ね台本に沿った運営ができた。一部シナリオがズレたり資料が揃わない箇所があったが、大きなトラブルはなかった。

- ・ Zoom参加者とのラインつながりにもたついた。リハーサルや当日の連絡方法の改善。
- ・ アルカディアのプロジェクターが旧式。今後使うならば課題。
- ・ シナリオ最新版がTV松本スタッフまで行き届かなかったのと、リハーサルで十分確認できなかったことは反省点。
- ・ YouTubeのZoom画面は鮮明で、25にした的確なアドバイスを頂いたテレビ松本須崎専務ほか関係者に感謝したい。YouTube視聴者数は8月26日現在1,436回→9月19日時点1,515回→9月25日時点で1,524回視聴
- ・ 時間の経過について
 総会閉会 予定13:14 実施13:11
 懇親会松本紹介 予定13:21まで 実施13:27 校長、会長ここで一言あり
 Zoomメンバー紹介 予定13:30まで 実施13:36
 乾杯 予定13:45 実施13:50
 企画0-1、2、3まで 予定14:12 実施14:14
 企画2 予定14:37～15:30 実施14:41～15:30 予定を45分以上超過
 覇権の剣 予定15:08 実施15:38
 閉会の辞 予定15:22 実施15:47
 15:30完全終了を考えていたが、会場としては時間余裕あり完全撤退16:30問題なし。

(3) 事後・全般の振り返り

① 全般

- ・ 一年間にわたる準備期間中、コロナ渦の推移から目が離せず、「密」・「集まり」を回避する行動様式が求められる状態が続いた。「集まる」ことそのものに反対する会員からの声も寄せられた。情勢を読みながら、実施形態については慎重かつ果断に修正を図る必要があると認識して進めてきた。最終的には2つのキーステーション（松本とアルカディア）は総会・懇親会執行のスタジオとして位置付け、それ以外の拠点については設けないこととした。2つのキーステーションについては、「会食」とはせず、午前中から準備シタ方までの長丁場ゆえに食事は用意するが、「コロナ対応遵守事項」を用意し、十分理解したうえで参加頂くこととした。
- ・ アルカディア市ヶ谷という経費もかかる会場である必要はないのではないか、という点についても検討した。オンライン環境、総会としてのしつらえなどが相対的に優れていること、縣陵東京同窓会をよく知り、様々な要望等にに応じてくれること、今後環境が整えば再び一堂に会する将来を描くと2008年から毎年利用してきた同会場を拠点とすることとした。
- ・ 年間を通じて終始コロナ禍の影響を見極めながらの準備・開催となったが、幹事会をはじめとして同窓会のサポートとご理解のもとオンライン形式での同窓会総会・懇親会を

無事に執り行えたことは今後の開催方式に新しい選択肢を加えることにもつながり、一定の意義があったと感じている。

② 実行委員会を経験しての気付きと今後の検討課題など

- ・ コロナ禍で直接集まるのが難しくなり、活動の全体像や今まで蓄積されてきた運営のノウハウや、個別の活動や準備作業(会報あがたの作成、総会・懇親会)の持つ意義や意味合いを理解するのが難しくなっている。特に実行委員の代は初めて同窓会活動に関わる人も多く期間が一年しかないため、どのように理解してもらい活動を引き継いでもらうかが今後の課題の一つだと考える。
- ・ 備品類の取り扱いも実行委員持ち回りでなく、同窓会として管理といった方法も検討できるか。
- ・ 寄付金や協賛金のオンライン化を進め、事務作業の効率化を図り、実行委の負担を低減。
- ・ 若い世代の取り込み、同窓会活動の意義、在り方の再確認、誰目線での活動なのか、等。
- ・ 各委員会や同窓生の集まりを月一回程度開催。機動的に効率的に動ける仕組みを作る。